ＧＩＧＡスクール構想２年目の取り組み

国が進めるGIGAスクール構想により導入・整備された一人一台のタブレット端末の活用がスタートしてから約１年が過ぎました。本年度はGIGAスクール２年目として、各小中学校で「授業での活用」をテーマにさまざまな取り組みが進められています。ICTを取り入れた新たな学びがどのように行われているのか、各学校での実践についてお知らせします。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けて

ＧＩＧＡスクール構想２年目は、教科など授業での活用を目指し各学校で取り組みを進めています。ＩＣＴを活用することで各教科の授業では、児童生徒一人一人のつまずきに対応した指導や、興味・関心に基づいた学習課題に取り組む機会を提供するなど、個別最適な学びの充実を図ることができます。

また、児童生徒同士がお互いの考えや作品などをタイムリーに共有し、意見を交流することで考えが深まるなど、協働的な学びの充実にもつながります。

Ａ－ドリルの導入

６月から市内全中学校に導入したＡＩドリルは、解答内容や解答時間などから、一人一人のつまずきを分析して問題が出題されるため、それぞれに応じた知識や技能を習得する学習が可能になります。

各学校では、朝や放課後にＡＩドリルを利用した学習時間を設けたり、授業の練習問題でＡＩドリルを活用したりすることで、基本的な知識・技能の定着を図っています。

また、一人一人に応じた指導が求められる特別支援学級の授業での活用も進んでいます。個々の学習進度や内容に合った問題に取り組むことができ、自動ですぐに採点されるため、生徒は集中して問題に臨み、自信を付けています。

今後の取り組み

現在、デジタル教科書や学習アプリなど、さまざまなコンテンツの開発が急速に進み、本市でも昨年10月から電子図書館の利用が開始になるなど、一人一台タブレット端末を利用できる場面が増えています。

児童生徒が自分の夢や志を実現するための力を身に付けられるよう、今後もＧＩＧＡスクール構想を推進し、ウイズコロナ時代の学びの保証と個別最適な学びの実現を目指しながらＩＣＴを活用した「新たな学びのかたち」の構築に向けて取り組みを進めていきます。

市内小中学校のICT活用事例

■個別最適な学びと協働的な学びを支えるICTの活用

▲タブレット端末上で相手が書いた文章を読み、デジタル付箋を使って助言する様子

中学校で導入しているＡＩドリルは、生徒それぞれの間違いを人工知能（ＡＩ）が解決し、一人一人に最適化された問題が出題されます。理解度に合わせた問題が出題されるため、生徒は基礎から応用までさまざまなレベルに応じた学習ができます。答え合わせも瞬時に行え、効率的な学習が可能となります。

また、中学校３年生国語の授業では、多様な読み手を想定した文章を書く学習に使われ、デジタルホワイトボード機能を活用しました。一人の文章を全員で共同編集できるため、質問や意見を送り合うことができ、協働的な学びが促進されています。

■プログラミング教育の推進

▲プログラミング学習はコンピューターが自分の意図したように動作するよう、試行錯誤しながら取り組みます

令和２年度から小学校の授業にプログラミング教育が導入されました。その目的は、児童のプログラミング的思考（論理的に考えていく力）を育成するところにあります。

小学校６年生理科の授業では、身近な照明を例に電気を効率よく使うためのプログラムを考える学習を行いました。プログラミング教育もICTを活用した学びで、実感を伴った理解が図られています。

■市電子図書館を利用した読書活動の促進

タブレット端末で昨年10月から始まった白石市電子図書館を利用することができます。

以前から白石市図書館を利用していた児童は、この電子図書館サービスが始まったことで「借りるのが便利になりました」「たくさん本が読めてうれしいです」と話してくれました。児童生徒の読書推進の一助となっています。

■対面とオンラインのよさを生かした学校間交流

本年度の姉妹都市交流事業は、各校の児童が対面形式で顔合わせを行った後、登別市で発表する「白石市紹介」の資料をオンライン上で共同編集し作成しました。

オンラインのよさは「いつでも」「どこでも」行えるところにあります。児童のICT活用力の向上がうかがえます。